

B-23 衣服に発生する静電気が生体に及ぼす影響

和洋女子大 ○田口 秀子
川村 一男

化学繊維衣料は、その高分子化合物である特性から、静電気の発生帯電の起ることは周知のことであり、このような衣服を着用することによって常に静電気の発生帯電および放電の影響を、生体がこうむることが当然想像される。

演者等は、上記の点に注目して、動物実験（家兎）および人体実験（成人女子）を試みた。

追究した因子は、自律神経緊張に関係ある血清 Ca、および血糖、並びに好酸球を主とした。供試し繊維衣料は、テトロン、カシミロン、ナイロン、アセテート、ビニロン、ベンベルグ、テビロンおよびポリノジックの各繊維であり、これと比較考究する意味で、天然繊維である木綿、および羊毛にても同様に行なった。

その結果の大要は次の如くである。

1) 成熟家兎（♂）に前述の各合成繊維を着装させることによって、血糖値、好酸球の変動および、血清 Ca 量に対して有意な差は認められず、すべて生理的動揺範囲である。

2) 天然繊維においても同様の結果を得て、また合成繊維との間にも特に見るべき相異はない。

3) 次に人体につき同様に追究した結果、血糖においては増加減少の不安定な状態を示し、また血清 Ca も衣料着用後に減少の傾向を示した。

以上の結果から、静電気の生体への影響は生体の適応により、著明なものは認められない。